

帯広市立豊成小学校

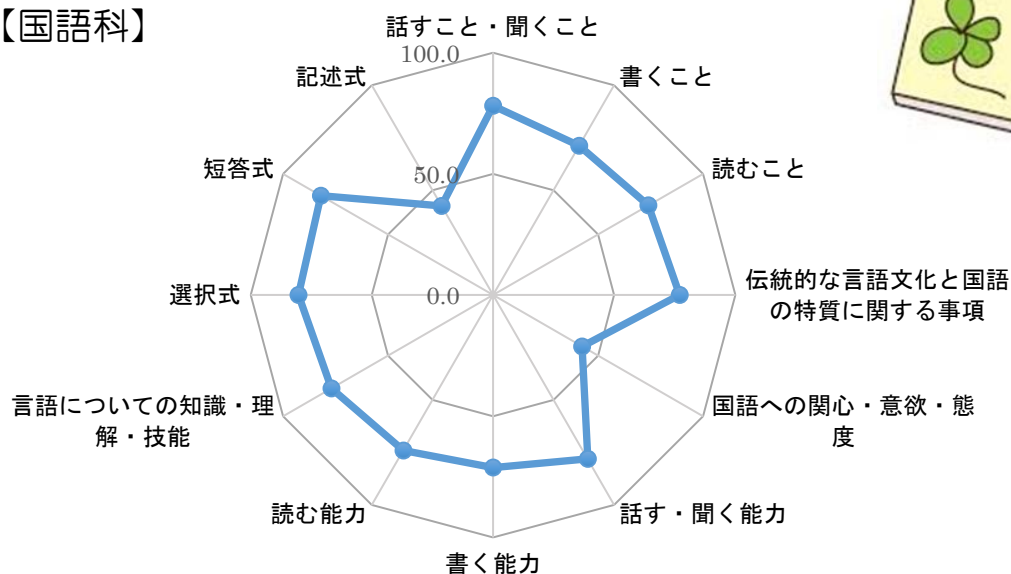
令和2年度 全国学力・学習状況調査の問題を活用した 校内分析から見た本校児童の様子

今年度は全国一斉の全国学力・学習状況調査が中止となりましたが、本校は9月8日に6年生が問題に取り組みました。校内採点における分析結果をお知らせします。

なお、今年度は全国平均が出ていないので、基準となる数値がないことから、校内の平均得点率をグラフにしています。

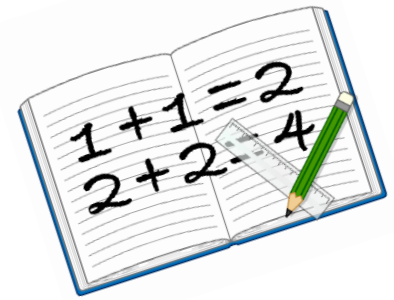
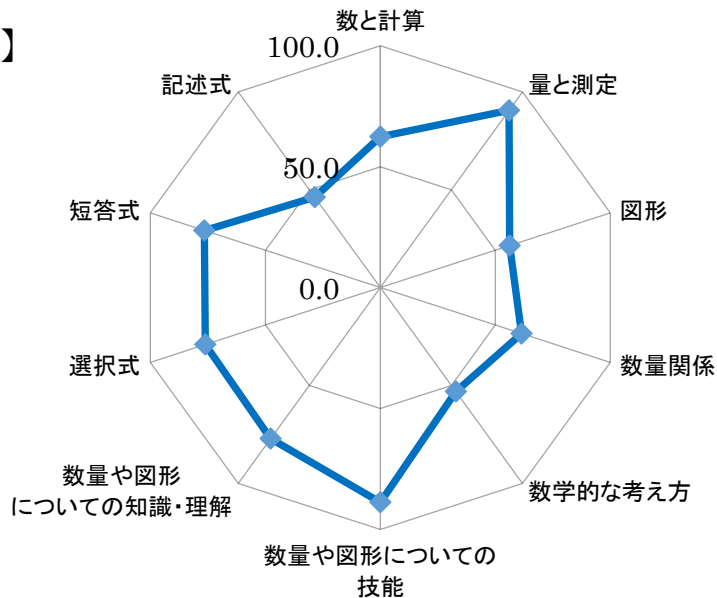
【各教科の概要】

【国語科】



- 全ての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」）で、理解が深まっています。
- 観点別に見ても、国語科で学ぶ「読み書き」、「話す・聞く」、「言葉の知識・理解・技能」等、安定した力が付いています。
- これまで、教科全般で取り組んできた日常の書く活動や表現する活動、課題とまとめを常に意識した授業改善に継続して努めてきた成果と考えられます。
- 日常の授業改善はもとより、読書活動の充実、朝読書、朝学習、宿題、日常の繰り返し学習、丁寧な個への指導の充実の成果が表れています。
- ▲少しずつ、力は付いてきていますが、まだまだ、記述する形式の問題への対応が難しいです。また、学力と比較すると、国語自体への興味や関心が希薄であることが課題です。

【算数科】



○領域別に見ると、「量と測定」が大変よくできています。

○観点別に見ると、計算の仕組みや公式等の「知識・理解」、実際に計算の答えを求めたり、面積や体積を求めたりする「技能」において、安定した力を発揮しています。

○指導方法工夫改善加配による個への丁寧な指導の充実を図ったTT、習熟度別学習の成果が表れていると考えられます。

○実物投影機などのICT機器を積極的に活用し、目で見て理解しやすい工夫を行っている成果が表れています。

◆答えまでの過程を説明したり、具体的場面に活用したりする等の「数学的な考え方」が課題としてあげられます。また、国語同様、記述する形式の問題への対応も課題です。

【学習状況調査（児童質問紙）より】

【高いと考えられる項目】

- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」
- ・「学校のきまりを守っている。」
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことである。」
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思っている。」

【改善を図っていく必要があると考えられる項目】

- ・「家の人と進路などの将来のことについて話すことがある。」
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」

○ルールをしっかりと守ること、いじめは絶対にだめだと思っていること、自分だけではなく、他人のために役立ちたいと感じていることなど、本校が校内研究で進めてきた道徳の時間の充実が子どもにしみいつてきています。

◆キャリア教育を教育活動全般で進めています。将来のこと、将来に向けて今すべきこと、物怖じせず、目標に向かって挑戦することなど、つながりを大切にして、指導を重ねる必要があります。

【全国学力・学習状況調査の結果を受けて】

- (1) 学習意欲を高め、社会で生きる実践的な力を身に付けるために、地域（文教ゾーン）と連携しながら身近な課題に基づいた体験的・問題解決的な学習を重視した教科指導やキャリア教育の充実に引き続き努めます。
- (2) 基礎的・基本的内容を確実に定着させるため、習熟度別少人数指導等、指導方法の改善を図り、目標・指導・評価の一体化を重視した授業改善を行います。
 - ☆数値目標①・・・全国学力・学習状況調査の各教科において、平均正答率を70%以上。
 - ☆数値目標②・・・全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合を全国平均より5%減少。
- (3) 家庭と連携し、家庭学習習慣の確立を図ります。
 - ☆数値目標③・・・4～6学年において、学校の場合以外に1日あたり（学年×10+10）分、勉強していると回答する児童の割合を9割以上。

【改善方策】

- (1) 今回及び今後の各種調査結果の分析と課題と成果の共有化を常に図り指導に生かすとともに、解き直しの機会を設け、確実に全員が理解することを目指す。再テストを行い理解の定着を目指します。
 - ・全国学力・学習状況調査、全学年CRT、全学年チャレンジテスト
 - ・WEBシステムフォロー・サポート問題 等
- (2) 全校共通の取組を推進し、全体の底上げを目指します。
 - ・教室環境、学習規律の徹底、校内研究とリンクした学習過程、ICTの積極的な活用、ノート指導（まとめる・書く活動の重視）、課題とまとめを明示した一単位時間の授業づくり、授業の終末の定着時間の重視、生徒指導の充実 等
- (3) 校内研究と公開研究会での検証を生かした授業改善に努めます。
 - ・日常生活に生きる道徳教育の充実
 - ・特別支援教育の手法を取り入れた効果的な指導の充実
- (4) 習熟度別少人数指導を徹底した授業づくりを行います。
 - ・低学年の定着漏れの回避を重視
 - ・すべての児童にわかる喜び、できた喜びを体感
- (5) 家庭学習の手引き、生活リズムチェックシートを配付し、学習習慣や望ましい生活習慣を確立するための家庭への啓発の継続化を図ります。
 - ・家庭との情報の「交信」を意識し取組の推進
 - ・家庭との連携をより深めていくための手立てについて工夫
- (6) 長期休業日等における補充学習を実施します。

